

## 天竜川中流域観光戦略

しらびそ高原



日本一の星空 阿智



「河の天の川」  
と  
「天空の天の河」

を 旅 す る

リニア時代に向けた和船＋  
南信州域内アクティビティ  
を中心とする観光振興に  
向けて



天龍峡



天龍峡大橋 そらさんぼ

## 新会社経営体制

代表取締役社長	白澤裕次	阿智屋神観光局代表取締役
取締役	高橋 充	榑南信州観光公社代表取締役
	藤澤 安良	榑体験教育企画代表
監査役	児島 博司	(有)ホテル三宜代表取締役 (浪漫の館月下美人)
社員	8名	営業事務1名、船頭7名 (内営業兼務1名)
嘱託船頭	3名	
営業経営支援	1名	(南信州観光公社兼務)

## 役員のプロフィール

### 代表取締役 白澤裕次(しらすわ ゆうじ)

㈨南信州観光公社取締役/㈨阿智昼神観光局 代表取締役社長/ジェイ・マウンテンズ・セントラル㈨代表取締役 他  
昭和39(1964)年生まれ。58歳。

地域連携DMO(観光庁登録:観光地域づくり法人)南信州観光公社取締役として広域観光振興の旗振り役を務めている。1996年阿智村の第三セクター「阿智総合開発」(現ジェイ・マウンテンズ・セントラル)に入社後、2010年に代表取締役に就任。阿智村の星空を地域・観光活性化活かし、誘客促進することを目的に設立された「スタービレッジ阿智誘客促進協議会」の副会長として、また、2016年には阿智昼神観光局の代表取締役に就任し、日本一の星空を軸とした地域づくりを中心となって手掛け、阿智村の観光や地域発展の一翼を担ってきた。2012年に開始した1400mの山頂で楽しむ「天空の楽園 日本一の星空 ナイトツアー」で、阿智村は全国から注目される観光地となり、コロナ禍前の2019年シーズンまでの星空関連イベント来場者数は累計60万人を超えている。

### 取締役 高橋 充(たかはし まこと)

地域連携DMO(観光庁登録:観光地域づくり法人)㈨南信州観光公社代表取締役/㈨大空企画代表取締役  
昭和43(1968)年生まれ。54歳。

大学卒業後、NTT、近畿日本ツーリスト千葉教育旅行支店を経て、南信州観光公社に入社。教育旅行営業時代に飯田市観光課が開始した体験教育旅行誘致事業と出会い、南信州への大量送客のきっかけを作った。飯田市役所に請われて、2001年南信州観光公社設立とともに支配人に就任。その後代表取締役に就任し6期12年を務めている。教育旅行における農泊をはじめとするグリーン・ツーリズムを全国に先駆けて推進し注目される。これまで教育旅行誘致を通じて南信州地域に直接投下された消費額は70億円を超え、その経済波及効果はツーリズム乗数2.4倍として約170億円と推計される。2021年より飯田市からの要請により遠山郷の宿泊施設・しらびそ高原天の川を中心とする観光施設経営母体の大空企画(そらきかく)の代表取締役を務めている。

### 取締役 藤澤安良(ふじさわ やすよし)

㈨南信州観光公社取締役/㈨体験教育企画代表取締役

昭和27(1952)年生まれ。70歳。滋賀県日野町出身。事務所は東京都大田区。

1995年に「体験教育企画」を設立し、教育旅行をはじめとする観光の商品企画を体験型にするべく、受入側ノウハウの提供によりその普及をめざす。1996年より飯田市の開始した体験型観光振興事業のコンサルタントとして、当時の観光課と地域資源の活用とその受入指導等に当たる。以来南信州の観光振興に一貫して寄り添い指導に当たってきた。今回の舟下り事業の再生についても専任として深くかかわる予定である。また、旅館ホテルの経営・再生、観光施設のコンサルティングにも多くの実績を持っており、飯田市しらびそ高原天の川、平谷村ひまわりの湯・館、中川村望岳荘等の販売増加にも関わる。

### 監査役 児島博司(こじま ひろし)

有限会社ホテル三宜(グリーンホテル三宜)代表取締役社長/東京都旅行業協会協定会員連盟会長  
下條村観光協会会長。飯田法人会長。元日本JIC役員。現在、下條村で浪漫の館月下美人を経営。

3

## 南信州リゾートの基本姿勢

歴史・文化・自然と共に、古来より私たちの傍にあった「天竜川」

: そのストーリーに改めてフォーカス、連携し、協働する

「天竜川」は奈良時代の頃には「麿玉(あらたま)川」と呼ばれ、

鎌倉時代には「天の中川(あまのなかがわ)」と呼ばれ、その後「天竜川」と呼ばれます。

「天竜」はもともと「天流(アメノナガレ)」と読まれていました。これは天から降った雨が、峰から湖へ流れ出て川となり、伊那の七谷から集まる水流を得て大河となって、やがて遠江(とのおとうみ)に注ぎ込むことに由来しています。

4

## 南信州リゾート3つのビジョン①

—リニア時代に向かって、南信州を世界のリゾートにする—

2027年に予定されるリニア中央新幹線効果は、1日の乗降客数6千人程度が想定され、これまで培ってきた飯田下伊那等の南信州観光を飛躍的に発展させるためのツールとしての機能が整備されます。しかしながら、座してはただの通過点となります。そうさせないためには、遠くあっても近くあっても、やはりそこに行かなければならないという旅の目的地化、そこに行く必然性を創り出さなければなりません。

星空観光、体験プログラムの基盤となる地域資源の活用による南信州体験型リゾートは世界のリゾートとして進化する可能性を秘めています。南信州の文化性の高さ、歴史性、人々の進取の気風を背景に新しい天竜川を舞台としたリバーツーリズムを展開します。

5

## 南信州リゾート3つのビジョン②

—天竜川流域観光の旗手として—

広域観光の視点からみれば、流域全長70kmに及ぶ動線から面的な展開が可能となります。全国的知名度を得た星空観光、随所に息づく伝統文化、ユネスコ世界無形遺産の風流踊り、伝統野菜を核とする食文化、ラフティングやカヌー、サイクリング、トレッキング等の渓谷から山岳に至る多様なアクティビティは、国内外の観光客を惹きつけずにはおかない魅力を有しています。和船下りを起点に、多様な体験プログラムと宿泊施設、観光施設を結び付けて、連携し、協働し、今は点の南信州観光を、点から線へ、線から面へと発展させます。

6

## 南信州リゾート3つのビジョン③

—和船文化の伝承のために変わり続ける—

天竜川の水運は、1608(慶長13)年大仏殿を立てる際、角倉了以が鹿塩・大河原から松の良材を伐りだして天竜川を流して大阪に回漕、また、1612(慶長17)年には江戸城天守閣造営のため遠山から長さ17間の大木を伐りだし江戸に運搬した記録も残っており、江戸時代から樽木流しとともに筏流しの手法で盛んにおこなわれていました。時代は下り17世紀には長良川の和船を参考に造船が開始されており、その技術は天竜川下りとともに伝承されてきました。

わたしたちは105年間にわたり事業として成立してきた和船観光に新たなストーリーを加えます。

全国的に見ても和船建造技術は風前の灯火の中にあり、これをリニア時代に向かって、経済効果を伴う形で伝承していくための連携と新しい方策を実行します。

7

## 新たなブランドコンセプト

### 「天竜川リバーランド : TenryuRiverlands」

このブランドは、狭い意味でのリバーツーリズム以外の観光コンテンツにも開かれている点が重要です。

和船下りやラフティングなど川を利用したコンテンツだけでなく、茶摘みやハイキング、サイクリング、地域の特産品や工芸品、食文化等々、天竜川やその支流を軸に川+〇〇のコンテンツも強力な販売ツールにする方向性を示しています。

「Valley (谷)」、「Plain (平原)」、「Basin (盆地)」、「Alps (アルプス)」などと比較して、実際の風景を特定しすぎることなく、一般的に「Riverlands」という言葉はポジティブで良いイメージを与えます。「Riverlands」という言葉は、今のところ日本国内では使われていないことが特徴ですが、一方で、南信州の風景や観光コンテンツの多様性を含んでいるとも言えます。

8

## 戦略の背景 -ポストコロナの観光動向-

- ①国内旅行への回帰
- ②団体から個人へのシフト鮮明
- ③三密対策を踏まえた適切な距離保持と旅館等観光施設オペレーションの変化
- ④自然回帰志向
- ⑤健康・免疫力・身土不二志向の全年齢層における増加
- ⑥企業マインドの変化（一般企業においても経営に健康側面を取り入れる動き）
- ⑦品質、高価格、地域共生型旅行企画へのシフト
- ⑧移動手段の主体は自家用車へ変化
- ⑨数を追う観光から価格・サービス内容共に質を高める観光へ

9

## 天竜川中流域観光戦略事業

天竜川下りを核とする和船文化、川のアクティビティから、天竜川中流域エリアの振興まで視野に入れた事業展開を図る。

- ①天竜川和船下りに新しい魅力付加
- ②和船文化伝承のためのガイド施設機能(展示・造船・ガイドンス・操船体験(AR・VRバーチャル映像活用))
- ③流域におけるリバースポーツアクティビティ(ラフティング・バックラフト・ダッキー・カヌー)の実施
- ④天竜川中流域エリアの新しい動きと連携した商品企画造成(サイクルツーリズム・ナイトミュージアム・マルシェ等々)
- ⑤天龍峡案内ガイドサービスの提供
- ⑥SDGs・環境学習プログラムの開発と販売(天竜川学習館かわらんべとの連携、水生生物・水質・大気の循環等)
- ⑦天竜川テラス・カフェの営業
- ⑧天竜川食堂の運営
- ⑨SDGs持続可能な観光に向けた天竜川流域の環境整備CSR(竹林整備・川環境の改善・外来植物対策)
- ⑩天竜峡新港の開設と市田港・鷺流峡・天龍峡コースの再開
- ⑪観光施設戦略コンサルティング機能の設置(市町村観光施設等へのコンサルティングの実施)<sup>10</sup>

①天竜川和船下り



和船のストーリーを体験、舟釘を打つ、帆掛け舟、屋形船、船内飲食の仕組み等々。インバウンド需要にも対応。



②和船文化伝承のためのガイダンス施設機能(展示・造船・ガイダンス・操船体験(AR・VRバーチャル映像活用))

天竜川ストーリーをバーチャル体験AR/VR技術の活用



③流域におけるリバースポーツアクティビティ(ラフティング・パックラフト・ダッキー・カヌー)の実施



多彩なリバーアクティビティを体験、パックラフト(一人乗り)は松川町から20km航下も想定可能



④天竜川中流域エリアの新しい動きと連携した商品企画造成(サイクルツーリズム・ナイトミュージアム・マルシェ等)



流域には住民・若手経営者等によるいくつもの新しい取組が始動、連携した旅行企画を提案。



天竜リバーランド



北部町村のサイクル  
ツーリズムとも連携、  
天竜川周遊コースの  
設定や  
スピンオフでマウン  
テンバイクコースも  
開発

⑤天龍峡案内ガイドサービスの提供



ガイドンス、南部町村  
の飯田線廃線インフラ  
ウォーク等の開発も視  
野に



⑥SDGs・環境学習プログラムの開発と販売(天竜川学習館かわらんべとの連携、水生生物・水質・大気の循環等)



SDGs学習、教育旅行、  
インバウンド向けプロ  
グラムの開発。



⑦天竜川テラス・カフェの営業



⑧天竜川食堂の運営(セントラルキッチン方式も視野)



⑨SDGs持続可能な観光に向けた天竜川流域の環境整備CSR(竹林整備・川環境の改善・外来植物対策)



両岸の竹林整備や外来植物駆除、水質保全活動等に協力

⑩天龍峡新港の開設と市田港・鶯流峡・天龍峡コースの再開



舟下り・ライン下りの相乗効果、ロングコース開発による顧客満足度の向上



21

⑪観光施設戦略コンサルティング機能の設置(市町村観光施設等へのコンサルティングの実施)



市町村観光施設コンサルティングの本格始動。これまでも飯田市、平谷村観光施設のコンサルティングに実績あり。本格的にコンサルティング事業を展開。



## 和船下りの流れ

・和船サービスフロー

午前便	午後便	内 容	担当者
9:50	13:50	集合受付 リバーポート時又	事務担当者㉞
10:00	14:00	日本の和船展示コーナー 天竜和船下りの歴史105年マイクロバス 和船の造船技術・ 和船の操作技術・造船体験	ガイド 船頭 A
10:30	14:30	移動(マイクロバス) 天竜川の自然 ガイダンス	運転 船頭 B ガイダンス 船頭 B
11:00	15:00	和船下り体験 リバーポート弁天	船頭 B 船頭 C
11:40	15:40	ゲストからの感想ヒアリング 乗船証明書授与	船頭 C 船頭 C 事務担当者㉞
11:50	15:50	お土産販売	
12:00	-	昼食施設(BBQ)との連携	

レスキュー：船頭㉞ 事務担当者㉞

## 料金体系（予定）

和船下り 大人（中学生以上）	3,000円
子ども（3歳以上）	1,650円
団 体（10人以上）	2,700円

ラフティング	
大人（中学生以上）	8,000円
子ども（3歳以上）	4,000円
団 体（教育旅行）	6,000円

※ いずれも税別